

## 4 総合的な学習の時間の展開例

③では、各教科・科目（国語や算数など）において防災・減災の学習をするための指導例を挙げた。学校における防災・減災教育の実践をさらに充実したものとするためには、各教科や領域の枠を超えた総合的な学びも必要である。

そこで、この④では、総合的な学習の時間を活用して防災教育に取り組む場合の展開例を示す。

ここでは、1時間～4時間程度で取り組む場合から、年間を通じて数十時間かけて取り組む場合の展開例を示すことで、各学校の実情に応じて選択し、活用できるものとした。



## 〈総合的な学習の時間 展開例1〉

### 防災について学び、今の自分にできることをグループワークを通じて考える

〔対象校種 中・高等学校 1～6時間〕

防災教育で育てたい柱		
〔学ぶ〕	〔考え・動く〕	〔実現・貢献〕

#### ◆ 防災教育としてのねらい

過去の自然災害に関する資料を多面的・総合的に捉え、自然と人間との関わり方について学び、防災・減災と災害後の復旧・復興のために「今の自分にできること」を具体的に考えられるようにする。

#### ◆ 具体的な指導

- 1 阪神淡路大震災の資料（参考①他）を活用し、当時の状況を伝える。
- 2 阪神淡路大震災による死因の多く（警察庁によると87.8%）が家屋の倒壊や家具等の転倒による圧迫死だったことから、家具固定の大切さを伝え、資料（参考②他）を活用してその方法を示す。〔1、2で1時間〕
- 3 東日本大震災の資料（参考③他）を活用し、東日本大震災の被害状況と復興の道のりを示す。〔1時間〕
- 4 資料（参考④他）を活用し、東日本大震災の被災地における高校生の活動を伝える。〔1時間〕
- 5 グループで愛知県内の過去の災害について調べ（参考⑤、⑥他）、地域や学校の実情に応じた\*防災行動計画（タイムライン）を策定（参考⑦他）し、グループごとに発表させる。〔2～3時間〕

※防災行動計画（タイムライン）とは

「いつ」、「誰が」、「何をするのか」を、あらかじめ時系列で整理したもの。国、地方公共団体、企業、住民等が連携して策定することにより、災害時に連携した対応を行うことができる。特に、予測できる台風、集中豪雨等による災害に生かされる。

#### ◆ 参考

- ① 阪神・淡路大震災から22年（NHKオンライン，NHK神戸放送局）  
<http://www.nhk.or.jp/kobe/shinsai22/>
- ② ・平成21年度「やってみよう！家具固定（1～4回）」（内閣府ウェブサイト）  
・「みんなで減災」（内閣府ウェブサイトからダウンロード可能）  
・「減災のてびき」（内閣府ウェブサイトからダウンロード可能）
- ③ 東日本大震災アーカイブス  
<http://www9.nhk.or.jp/311shogen/>
- ④ シンサイミライ学校「BOSAIとは考え、伝え、行動すること」  
諏訪清二先生（当時 兵庫県立舞子高校）の特別授業の様子を、動画を交えて伝える。  
[http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program\\_maiko/](http://www.nhk.or.jp/sonae/mirai/program_maiko/)
- ⑤ 歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト  
災害を今に伝える史跡等を紹介することで、過去の教訓に学び、地域における災害を伝承するために、愛知県防災局で作成された。  
[www.pref.aichi.jp/bousai/densho](http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho)
- ⑥ 過去の災害情報  
過去に県内で被害が発生した主な自然災害、特殊災害を愛知県防災局が表にまとめた。  
[www.pref.aichi.jp/soshiki/saigaitaisaku/0000013241.html](http://www.pref.aichi.jp/soshiki/saigaitaisaku/0000013241.html)
- ⑦ 国土交通省 タイムライン  
動画「タイムラインで災害に立ち向かう」を閲覧できる。  
<http://www.mlit.go.jp/river/bousai/timeline/index.html>

## 〈総合的な学習の時間 展開例2〉

避難訓練をより充実したものとするために  
〔対象校種 小・中・高等学校 4～5時間〕

防災教育で育てたい柱		
【学ぶ】	【考え・動く】	【実現・貢献】

### ◆ 防災教育としてのねらい

過去の災害の教訓を生かし、児童生徒が各自の判断で主体的に行動する実践的な避難訓練となるようにする。また、特に中学・高校生は、災害時に被災者救助にも力を発揮できるよう、救助や応急処置ができるようにする。

### ◆ 具体的な指導

#### 1 防災意識を高めてから避難訓練を実施する取組〔2時間〕

##### (1) 事前講話〔1時間〕

東日本大震災や熊本地震等の過去の災害を参考に、学校が所在する地域で起こりやすい災害について考えさせる。

##### (2) 避難訓練〔1時間〕

5の避難訓練例を参考に、教職員不在時の設定とし、さらに訓練中に新たな情報（津波情報や避難経路の一部遮断等）を追加していくことで、児童生徒が各自で状況を判断して行動する訓練を行う。訓練後には、各自の行動について必ず振り返りをさせる。

#### 2 救助訓練（消防署と連携）〔2～3時間〕

##### (1) 避難誘導訓練

様々な場面を想定し、体が不自由な人の誘導、援助を行わせる。

##### (2) 消火訓練

地震により発生した火災を、消火器やバケツリレーで消火活動をさせる。

##### (3) 救出訓練

倒壊した家屋等に挟まれた人を救助する場面を想定し、手作業又は簡単な道具を用いて救出作業をさせる。

##### (4) 救護訓練

AEDを含む心肺蘇生法による救命、止血法や骨折等の怪我に対する応急手当、傷病者の搬送等を行わせる。



### ◆ 参考

保健の授業における応急手当の単元と合わせて取り組むとよい。



## 〈総合的な学習の時間 展開例3〉

防災関係機関から講師を招き、グループワークにおける助言や講話の機会を設ける  
〔対象校種 小・中・高等学校 1～10時間〕

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

### ◆ 防災教育としてのねらい

自助、共助、公助の概念を理解し、必ず起こる巨大地震と向き合い、災害への備えを身に付けられるようにする。(市の防災担当部局職員、消防署員、防災士、気象予報士、防災に取り組んでいるNPO法人、地域の自主防災会等の外部講師による講話を中心に行う。また、外部講師を招く場合には、事前に、学習のねらいや学習内容及び依頼内容等について打ち合わせておくことに留意する。)

### ◆ 具体的な講座内容

- 防災ボランティアの役割 (NPO法人レスキューストックヤード)
- 避難所運営ゲーム HUG (防災関係部局職員等)
- 災害図上訓練DIG (NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット等)
- クロスロードゲーム (防災関係部局職員等)
- クロスロードゲーム〔防災気象情報編〕(名古屋地方気象台)
- 災害語り部講座
- 応急手当の方法 (日本赤十字 等)

### ◆ 参考

- NPO法人レスキューストックヤード  
<http://rsy-nagoya.com/>
- NPO法人日本防災士会  
[www.bousaisikai.jp](http://www.bousaisikai.jp)
- NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット  
<http://npo-apla.org/>
- 名古屋地方気象台  
<http://www.jma-net.go.jp/nagoya/>
- 日本赤十字 愛知県支部  
<http://www.aichi.jrc.or.jp/>



## 〈総合的な学習の時間 展開例4〉

### 避難所体験をしよう（防災キャンプ）

〔対象校種 小・中・高等・特別支援学校〕

防災教育で育てたい柱

〔学ぶ〕

〔考え・動く〕

〔実現・貢献〕

#### ◆ 防災教育としてのねらい

学校や地域の公民館等の施設を利用して避難所体験を行うことで、防災への関心を高め、災害時に自他の命を守ることの大切さに気付けるようにする。

また、家族や地域の人との関わりを通して、災害発生時及び発生後に、家庭や地域の安全に役立とうとする姿勢をもてるようにする。

#### ◆ 具体的な指導（活動可能な体験例）

##### ○ 避難所での宿泊体験

- ・段ボールで居住スペースを区切る。
- ・段ボール1枚を自分の寝床として敷く。

##### ○ 非常食づくり

- ・アルファ米に沸かしたお湯を注ぎ、食べる。
- ・紙皿はビニール袋で包んで使用し、再利用する。

##### ○ 緊急避難メールにより集合訓練

- ・メールを配信し、公民館等へ集合後に安否確認を行う。
- ・家庭から非常持ち出し袋を持参し、必要なものについて話し合う。

##### ○ 公民館等の防災設備の見学

- ・備蓄倉庫を見学し、説明を聞く。
- ・耐震性貯水槽（飲料水用）等の設備を見学し、説明を聞く。

##### ○ ホットタオル体験

- (1) タオルを入れたビニール袋にお湯を注ぎ、しみ込ませる。
- (2) タオルを取り出し、体を拭く。

##### ○ ツナ缶ランプ体験

- (1) ティッシュでこよりをつくる。
- (2) 缶を少し開け、こよりを入れ、火をつける。
- (3) ランプ使用後には、ツナを食べる。



#### ◆ 発展

市町村教育委員会等と連携し、外部講師による講演会や出前授業等を同時開催することで、より効果を高めることが期待できる。

#### ◆ 参考

地域の防災ボランティア団体、市町村防災担当部局、社会福祉協議会、日赤奉仕団等の防災関係機関に協力を依頼するとよい。

## 〈総合的な学習の時間 展開例5〉

### 災害図上訓練（DIG）をしよう

〔対象校種 小・中・高等学校 2～3時間〕

防災教育で育てたい柱

【学 ぶ】 【考 え・動 く】 【実 現・貢 献】

#### ◆ 防災教育としてのねらい

大きな地図を皆で囲み、災害が発生した場合のリスクを書き込む等をして、発災時に地域がどのようになるかをイメージし、日頃から万が一に備えて考えておくことができるようにする。

#### ◆ DIGとは

地図を使って防災対策を検討する訓練で、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名された。また、dig という英語の動詞には、「掘る」「探求する」「理解する」という意味があり、DIG には「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味が込められている。

#### ◆ 具体的な指導

##### 1 事前に準備するもの

- (1) 地図（校区の住宅地図等）
- (2) 透明シート（地図の上に敷き、その上から油性ペン等で書き込む。）
- (3) 油性ペン（太字・細字両用を数色用意する。）
- (4) 付箋（作業中の気づきや意見を書いて貼りつける。）

##### 2 DIGの進め方

###### 【導入】

- (1) DIG について解説
- (2) 進行手順の説明
- (3) ビデオや写真で児童生徒等のイメージをふくらませる
- (4) 想定災害の説明

###### 【展開】

- (1) 自分たちが住んでいるまちの構造や過去の状況の確認
  - ・鉄道、主要道路（国道、県道）、狭い道や路地
  - ・河川、水路、用水
  - ・広場、公園
- (2) 地域の防災に関する機関や施設の表示
  - ・市町村役場、消防署、警察署、医療機関
  - ・避難所（学校、公民館等）
  - ・地域の防災倉庫、防火水槽
- (3) 地震の際に、転倒、落下、倒壊の恐れのある施設等の表示
  - ・ブロック塀、石垣等
  - ・自動販売機、屋外広告物等

※地図に書き込む色を決めておけば、スムーズに作業に取り掛かることができ、発表の際にも理解しやすい。

###### 【まとめ・発表】

- (1) 項目を示し班ごとに話し合い
  - ・災害発生時の防災や災害救援にとってのプラス要素
  - ・災害発生時の防災や災害救援にとってのマイナス要素
  - ・想定した災害の発生時刻に各自がどこにいるかを想像し、避難所までの経路を確認

※話し合いで出た意見は、付箋（カード）に書いて模造紙に貼り付けていく等の工夫が考えられる。

- (2) 班ごとに発表

#### ◆ 参考

- 静岡県地震防災センターウェブサイト「災害図上訓練DIG」
- 「高校生のための防災ノート」静岡県教育委員会（平成25年3月）

## 〈総合的な学習の時間 展開例6〉

### ボランティア活動しよう〔5時間〕

肢体不自由特別支援学校高等部における実践例

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

#### ◆ 防災教育としてのねらい

地域の公民館でボランティア活動（清掃活動）を行うことで、地域の人とのつながりを強め、災害時等の困ったときは助け合うという共助の意識が育つようにする。また、助けられるだけでなく、自分たちにもできることを考え、考えたことを実行する機会となるようにする。

#### ◆ 具体的な指導

- 校内の清掃や草刈り等でお世話になっている地域の方に対し、何かできることはないかを考え、話し合わせる。
- 例年、公民館での清掃活動を行っているので、どんな清掃をするかを話し合い、子ども達から出てきた活動案を取り入れる。
- 自分たちの活動が誰かの役に立っているという充足感が得られるように配慮し、言葉がけを行う。
- 清掃活動終了後は振り返りを行い、助け合うことの大切さや困っている人に対して自分に何ができるのかを考えられるようにする。

#### ◆ 発展

学校近隣の自治区の方と交流することで、学校の様子や生徒の実態を知ってもらう機会とする。



## 〈総合的な学習の時間 展開例 7〉

### 防災・減災に役立つ福祉機器について考える〔20時間〕

肢体不自由特別支援学校高等部における実践例

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

#### ◆ 防災教育としてのねらい

様々な福祉機器について学ぶ。生活に役立つ機器だけでなく、防災や減災に役立つ機器について調べたり、実際に触れたりすることを通じて防災意識を高められるようにする。また、調べたことを発表したり紹介したりする機会を設けることで、周囲からの理解を深めてもらえるようにする。

#### ◆ 具体的な指導

- 調べ学習の中で、防災や減災に役立つ福祉機器を調べさせる。
- 校外学習等で実際に機器に触れる機会を設け、使い方や使い勝手を体験させる。
- まとめや発表を通じて、自分たちが得た知識や経験を多くの人に伝えさせる。

#### ◆ 発表

- 文化祭等の場面において紙面や口頭で発表し、展示できる機器については展示して、実際に多くの人に触れてもらう機会とする。
- 福祉機器を取り扱っている業者と連絡を取り合う中で、防災や減災に役立つ機器を紹介したり、展示したりしてもらえるようにする。

